

第 1 回推進会議における主な提出意見等への対応について

1 青森県看護師等サポートプログラムの見直しについて

委員名	ページ	意見等の内容	回答案
角濱委員 榎谷委員 宮本委員	3	将来看護師を目指す人材確保のためには、高校生からのアプローチでは遅い。もっと小さい学年、夢を持ち始める時期からアプローチすべき。	小さい学年から積極的にアプローチしていくことを目標とし、キャリアパス欄の記載を「～中高生」に改めます。
榎谷委員 角濱委員	3	キャリアアップ応援の認定看護師等育成支援に「専門看護師」も追加すべき。	看護職員の県内定着を促進するため、まずは、より必要性の高い認定看護師、特定行為研修及び助産師への支援を優先することとし、専門看護師への支援については、次のステップとして今後検討していきたいと考えています。
榎谷委員	4	サポートプログラムに県、看護協会、医療機関、養成施設等の役割を明記してほしい。現状ではどこがどんな役割をしているかわからない。	各機関の役割を追記しました。
照井委員 榎谷委員	4	達成目標の「ナースセンターによる就職者数」について、求職側の条件が多く、マッチングが非常に難しい状況であるため、目標値328人の達成は厳しい。	いただいた意見を反映し、算定方法を改めることとし、過去7年間における最大値最小値を除く5年分の平均値である「277人」に修正します。

2 青森県保健医療計画（看護職員確保対策）の見直しについて

委員名	ページ	意見等の内容	回答案
榎谷委員 角濱委員	13	国の医道審議会の保健師・助産師・看護師分科会の看護師等確保基本方針検討部会の審議において、「多様な働き方」「プラチナナース」「看護助手」が網羅されている。県の医療計画にも記載すべき。	令和5年7月7日に開催された国の検討部会の提出資料を基に、「多様な働き方」と「プラチナナース」を記載しました。「看護助手」については、業務効率化の取組の一例に含めています。
榎谷委員	—	助産師のキャリア支援、研修受講料の支援ということも考えるべき。	助産師資格取得やキャリアアップ支援のための研修を現在行っており、まずは、それらについて優先して進めていきます。 さらなる支援については、次のステップとして、今後検討していきたいと考えています。

3 その他意見等

委員名	ページ	意見等の内容	回答案
榎谷委員	－	看護師等実習指導者講習会の修了者がいる病院を把握しているか。また、看護師等実習指導者がいる病院の割合は100%でなければならないと思う。	毎年度の各養成校からの報告により、把握しています。看護師等実習指導者がいる病院の割合については、100%を目指していきます。
榎谷委員	－	特定行為研修の指定研修機関が県内に二カ所しかないので、強くアプローチしていただきたい。	県内で特定行為研修指定研修機関があるのは青森市と八戸市のみであり、弘前市周辺にはないため、特に弘前市周辺の大学等に対して働きかけを行っていきたいと考えています。
榎谷委員	－	認定看護師育成の方針を明確にしていきたい。	今年度、医療機関等を対象に実施する調査の結果等を踏まえ、今後の方針、目標値について検討していきたいと考えてます。